

長岡バイオコミュニティ (2021年内閣府認定) ってこんなまち

NAGAOKA 1 さまざまな人・異業種が集い、交わる 長岡駅前のイノベーション施設「ミライエ長岡」

JR長岡駅から徒歩5分のところに2023年7月にオープンした「米百俵プレイス ミライエ長岡」は、若者や起業家、幅広い世代が集う、人づくりと産業振興の拠点です。コワーキングスペースや企業PRギャラリー、ものづくりラボ、アルコールOKのイノベーションサロンもあり、産学マッチングやセミナー、異業種交流、学生起業等、多様な事業が行われています。



NAGAOKA 3 様々な資源循環を実証できる 広大なフィールド

・人口約25万人
・面積891km²(東京23区の1.4倍)
・49.1%が山林、24.2%が田畠



NAGAOKA 4 コシヒカリ生誕の地 米の作付面積 ▼ 全国2位



NAGAOKA 5 日本酒蔵元数16、 米菓生産量 ▼ 全国2位



NAGAOKA 6 長岡発祥の錦鯉

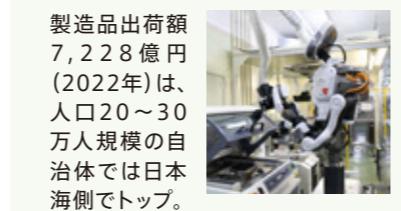
山古志・川口地域などの一帯が発祥の地で、その歴史は200年以上。品種は研究・改良を重ね100種にも及びます。海外でも人気があり、輸出先は50カ国超。



NAGAOKA 7 自治体最大級の 生ごみバイオガス 発電センター



NAGAOKA 8 高度な要素技術の 「ものづくりのまち」



NAGAOKA 9 東京から新幹線で 90分

面積 891.05km²
世帯数 110,775世帯
人口 253,147人
※2025年9月1日現在

NAGAOKA 10 みんなで創るバイオコミュニティ 長岡のバイオコミュニティの情報を発信中!

ロゴマーク(右)の小さな丸は、バイオエコノミー社会の実現に向けた個人や企業の取り組みを表します。それらがつながり、大きな循環の輪となって回りながら未来に進んでいく姿を表現しています。

詳しくはこちらのサイトをご覗ください



長岡バイオエコノミーコンソーシアム

【事務局】長岡市 商工部 産業イノベーション課

〒940-0062 新潟県長岡市大手通 2-6 フェニックス大手イースト

長岡市役所大手通庁舎 6階

TEL. 0258-39-2402 FAX. 0258-36-7385 E-mail: sangyou-seisaku@city.nagaoka.lg.jp

2025年10月 発行



891km²の特色と25万人の市民、バイオのフィールドに

日本三大花火大会に数えられる「長岡まつり大花火大会」のまちとして知られる長岡市。変化の波を的確にとらえ、新しいアイデアと手法により市民生活の向上と産業の活性化につなげるため、さまざまな取り組みを進めています。中でも、バイオエコノミーはその重要な柱の一つと位置付けられています。891km²という東京23区の約1.4倍の大地が育む水と自然、集積するものづくり企業、米どころ長岡が誇る農業や食品産業、4大学1高専が持つ専門性、全国2位の日本酒蔵元数に象徴される発酵文化、東京から新幹線で約90分の好アクセス、そして25万人の市民。この長岡をバイオエコノミーのフィールドとしてぜひご活用ください。産学官を挙げた長岡版エコシステムでみなさんの取り組みを全力で支援します。

バイオ産業の成長・創出を促進する 長岡版エコシステム

長岡市は、魅力に富んだフィールド、長岡商工会議所、4大学1高専、多様な企業や機関といった、産学金官が密接に連携した産業育成「長岡版エコシステム」により、バイオ分野はもちろん、全ての分野で社会課題の解決と経済発展を目指しています。そのハブ機能を「長岡バイオエコノミーコンソーシアム」が担っています。



産学金官のハブ機能 「長岡バイオエコノミーコンソーシアム」

コンソーシアムは、バイオエコノミーの推進や機運醸成を図ることを目的に、長岡市長を会長に2021年に発足しました。長岡市内をはじめ市外県外を含む産学金官68の企業・機関が参画(2025年9月現在)。多様な立場・知見を結び付けるバイオサロンやシンポジウム、産業成長に向けた視察ツアー、資源循環への機運醸成に生ごみ由来の肥料化・配付などの活動を行っています。

1. 産業成長促進



先進施設の視察



会員企業を集めて、国内最大級の公的機関である産総研を視察



全国の企業を対象に「長岡企業視察ツアー」(R6.7には絆団連バイオエコノミー委員会が長岡に)



バイオ人材の育成へ「学生向けバイオ企業ツアー」



産学官連携でお米を軸とした資源循環に取り組む「N.CYCLEプロジェクト」



アジア最大級のバイオ展「BioJapan」では企業と連携



地域資源の完全循環へ、生ごみ由来肥料を市民に配付



企業の実証実験を積極的に受け入れ

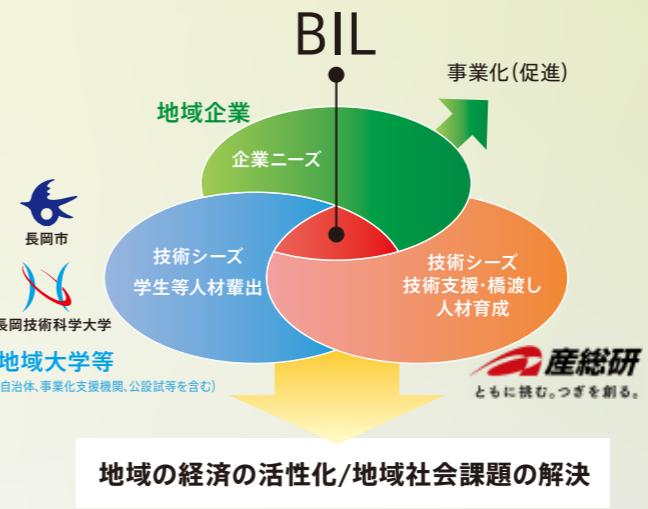
バイオで産業を活性化する

Industrial
revitalization through
biotechnology



産総研×長岡市×長岡技科大

2023年11月、「生物資源循環 BIL」が長岡に!



長岡市、産業技術総合研究所(産総研)、長岡技術科学大学(長岡技科大)は2023年11月、「長岡・産総研生物資源循環 ブリッジ・イノベーション・ラボラトリ(NAGAOKA・AIST-BIL)」の活動がミライエ長岡を拠点に開始。産総研のBIL※設置は全国2か所目で、その枠組みに自治体が入るのは長岡市が初となります。

NAGAOKA・AIST-BILでは「有機廃棄物を含む生物資源の資源循環」をテーマとした研究開発及び長岡市とその周辺地域の食品・バイオ関連等の企業支援を行います。

※BIL…Bridge Innovation Laboratory。企業ニーズを核とした研究開発を地域大学等(自治体等を含む)と産総研が連携して実施し、その成果の橋渡しを通じた地域企業の事業化支援による新産業創出、地域経済の活性化と地域課題の解決を目指す連携体制のこと

Topics

長岡技科大が産学官共創で資源完全循環に挑戦!



田んぼの地カラ、ミライへ

長岡技術科学大学が県内農家と他業種を巻き込んで取り組む地域共創プロジェクト「COI-NEXT」は、豊かな資源と技術を活用して「コメどころ新潟」を将来に引き継ぎ、田園が生み出す「食料づくり」の社会、若者が住み続けられる社会の実現を目指しています。2025年には、実証実験施設リージョナルGXイノベーション共創センターが完成しました。コメどころ新潟で、先駆的な資源循環の実装、そしてバイオコミュニティの醸成に挑戦します。



2. 産産・産学マッチング

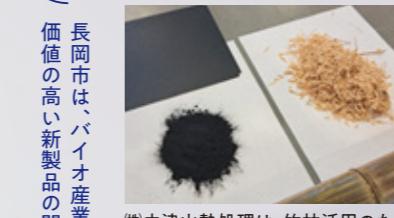


オープンイノベーションでビジネスを創出「バイオサロン」



多業種・学術機関がプレゼンとポスターセッション「バイオ未来交流会」

3. バイオ補助金



(株)中津山熱処理は、竹林活用のため“チップ→焼成→粉末→塗料”による電磁波遮蔽素材を開発



(株)プラントフォームは、アクアaponicsにおける養殖汚泥の解消と濃縮液肥の製造に取り組む

4. 情報発信



県内外のセミナーや講演会で産学者が登壇しバイオ都市・長岡をPR



ショート動画を制作し、若者・企業・エリアでターゲットを設定しネット広告を配信